

優しく強い子に！



南の考え方

南は創立以来、だんごのドリブルサッカーを大切にしてきました。難しい理論は必要ありません。

- ① どの子にも個人技主体のドリブルサッカーを身につけてもらう。チャレンジを楽しむサッカー！
- ② 3年生まではドリブルだんごサッカー。
- ③ だんごサッカーの発展が“北斗七星”のシステム。ボールサイドは常に数的優位を保ちながら、CBと逆サイドのDFはつるべで逆襲に備える。逆のSMFは開く相手をチェックできるポジショニング。

<http://www.minamih.net/>
19・2・23(土)
南NEWS no 136

何度もメールやNEWSに書いていますが、ワールドクラスでも、ハードワークで常に数的優位を保ち、相手陣内でボールを奪い、ショートカウンターを狙うのが主流になっています。

昔はイタリアの“カテナチオ”というゴールにかんぬきをかけて守り切り、ロングカウンターで得点を狙うというスタイルもありました。今も戦術として採用するチーム(日本代表チームも)があるようですが、主流とは言えません。

Jの鹿島の強さは相手陣内で数的優位を保ち、相手を囲み、ボールを奪取して得点を狙うサッカーを徹底しているからです。フロンターレの小林選手もそれを体現しています。

先ず南のサッカーをご理解ください。“北斗七星”は矢上が60年のサッカーの学びの中でたどり着いたスタイルです。子どもも理解しやすいと思います。先ず追試してみてください。その上でご意見をいただき、改良していきましょう。仲間からの学びを待っています。 by 南のアンパンマン



3年生交流戦

2019-2-16(土) 会場：文化大グラウンド

○めあて：技を使う、味方を勇気づける・励ます声、つるべ
(15分ハーフ)

①×南八王子 2-4 東八王子 (前半0-3) 得点：アサキ君、ユウセイ君

円陣を初披露したものの立ち上がりはアプローチが遅く3失点。後半6分に中央からアサキ君がドリブルシュートで得点、同10分にも2年生ユウセイ君がゴール。

②×南八王子 0-4 愛宕 (前半0-3)

ピッチを広く使おうとする相手に逆サイドに振られ、フリーの選手に決められるパターンで失点が重なりました。

(15分1本)

③×南八王子 0-2 東八王子

内容的には互角。逆サイドを2年生シンヤ君がよく観ていました。

④○南八王子 1-0 東八王子 得点：カイリ君

声も良く出て、アプローチも速くなり良いゲームでした。カイリ君の抑えがよく効いた素晴らしいシュートで勝ちました。

★試合を振り返って

一人ひとりの力は相手に少しも負けていません。浮き球に寄せるスピードと周りを観る力がつければ全部勝てるようになると思います。渡り廊下をドリブルで突破する狙いはある程度できましたが、もっともっとドリブルで抜けるチームをめざしましょう。

○アサキ君はこのチームで技術が一番です。スピードを上げる前に二人目三人目で引っかかる所を工夫しましょう。

○カイリ君はトップスピードの中で技を出せるようになってきました。もっとできます。

○カツヤ君は何回も突破できていました。スピードにのったとき、もう一工夫して技を出しましょう。

○マサムネ君は前を向いて仕掛けの意識が高くなりました。ボールによく絡みます。

○コウタ君はボールに絡めばすごい力を発揮するのでその回数を増やしましょう。

○ハルト君はボールを守れるようになってきたので空いている方へ運んでみましょう。

○ヒロト君は素晴らしいGKでした。アプローチも勢いがありました。

○ユウセイ君は守備でずいぶんがんばれるようになりました。ドリブルの技をもっと発揮してほしいです。

○ショウマ君はスピード豊かなドリブルと運動量が素晴らしいです。

○ユヅキ君はよく首を振っていました。自信を持って技を使ってください。

○シンヤ君も首をよく振り、体を入れてボールを奪っていました。コーチの話をとてもしっかり聴いてくれます。そしてすぐに試合で実行しているのが素晴らしいです。



試合前に「数的優位」の話をしました。8人对8人の同人数で試合をするのに、どうしたら「数的優位」にできるのか考えました。ボールを中心に3?4mの狭いエリアで、南の選手の方が多いう状況をもっとつくりたいですね。

前週の京王少年少女サッカーフェスティバルのともと狭いピッチでは3年生も2年生もあつという間にボールを囲い込んで奪っていました。

今日のように広いピッチでは狭いエリアをつくり出さなければなりません。自分の背後を守りながら相手に近づく「カバーシャドー」や、相手のコースを第一DFが限定する練習をもっとしていきましょう。選手たちが自分の考えでなく、サイドコーチングでやみくもにボールばかり観て走り出さないようにコーチもたくさん工夫します。

by 中村元コーチ

